



長岡周辺の立体地図
 赤青メガネでご覧下さい
 0 5km 10km 15km 20km
 枠は立体地図収録範囲で、数字はパネル番号と一致します。

長岡市街地は日本でも有数の広さを持つ越後平野の南端に位置しています。断面で見ると(図B)、この付近を構成する地層が全体として下にたわんだところ、すなわちいちばん沈降したところを信濃川が流れており、この大きな凹地に上流から運搬された土砂が堆積して越後平野ができました。

平野の東側には魚沼丘陵(東山)があり、その奥には越後山脈がそびえます。図A・Cで新発田と小出を結ぶ線の東側が古い地層や岩体でできていることがわかります(守門岳などの火山をのぞく)。ここは駒ヶ岳をはじめとした越後三山に代表される険しい山岳地帯となっています。

西側の東頸城(ひがしくびき)丘陵(西山)は新第三紀の地層でできた低い山並みですが、北北東-南南西方向に4列あり、このうち内陸側の3列は地層が馬の背のように褶曲した部分(背斜(はいしゃ)という)の軸と一致しています。かつての東山油田や現在の南長岡ガス田のように、石油や天然ガスがたまっているのはほとんどがこうした背斜構造のところです。

